□石沢　進（編）：**新潟県植物分布図集第12集** 128pp. 1991. 植物同好じねんじょ会. ¥3,000. 申込先：新潟市弁天橋通1−31−30　コーエイ印刷.

第10集までが一応完結したとき，本誌**65**：191に金井弘夫氏が,「地方の同好会としての大事業の完結」と讃辞を呈しておられる．各集100種を扱って1000種の分布図を完成されたところで，同じ精度を保つために速度を落し，11集からは1集25種ずつを扱い，さらに今の日本ではまだ困難な蘚苔類も取り上げ，県内の植物分布についての基礎資料の完成を目指し続けておられる．念のために，本書の構成を紹介すると，まず県内の分布を地図上に表示し，そこで取り上げた標本を，詳細データと共に列記し，参考に用いられた標本も挙げられる．新潟県内の当該種についての文献を取り上げ，分布上特記すべきことがノートされる．さらに，国内で分布図が作られているものがあれば，それも引用され，多くの種では，緯度別に整理された垂直分布図も整理される．ページが奇数で終る場合には，偶数ページには話題豊富な雑録が提供され，巻尾にも各種とは異った話題が盛られる．モノクロではあるが，登載された各種の生態写真も添えられる．

生物の多様性の維持について論議がかまびすしい．しかし，肝心の多様性についての基礎調査については，きれいごとが並べられることはあっても，汗をかく人は乏しい．そんな中で，新潟のこの記録は，50年にわたる現地調査を集成したものであり，出版だけでももう10年を超える継続的な努力が重ねられた．身の廻りに生きている生物への深い愛情があってはじめてまとまる事業である．県内の植物の動態を見るためにも，この基礎的な資料がものをいう．圧迫が加えられても，そこで起るだろう出来事については明確な見通しをもって語ることができる．自分達と同じ地域に共存する仲間達の動態である．友達として生きていくことへの執着が，毎年1冊ずつ積み上げられる分布図集に実っているのだろうか．いずれにしても，態度で示された植物達への友情が，彼らを殺害して恥じない人達へ強い抗議となっていることは確かである．目に見える効果がすぐに上がるというものではなかったとしても，生物の多様性についての関心がこれだけ高まりを見せてきたのも，世界の各地で地道に続けられてきた調査の成果にもとづくものであり，この分布図集は日本で数少ない貴重な資料であるといえよう．この調査がさらに継続されることを期待し，共同研究に携っておられる方々と，印刷，出版に貢献される方々の御努力に敬意を表させていただく．　（岩槻邦男）

□小林禧樹：**淡路島の植物誌**　217pp. 1992. 自然環境研究所. ¥2,300（送料は発行所負担).

ほぼ10年にわたる著者の集中的な調査研究の成果である．原則として公的標本室に納められた標本に基づき，一部は今後収納見込みのものを含んでいる．野外での採集品を標本に作るとともに，各地の標本室での調査を並行して行うのは，並大抵の努力ではない．目録は植物名の下に産地名，採集者略号，採集番号が列記され，種類によっては簡単なノートがつけられている．こころみにいくつかの頁をサンプルに計算してみると，リストされた1,279種に対する標本数は約6,500点，そのうち著者の採集品は82%におよび．これだけでも著者の精進のほどが知れる．74頁までは植物相の概要や研究史に費やされ，202頁以降は調査地点一覧，文献表，和名索引である．一つ注文をつけると，地点一覧は市町村とともに経緯度を示してほしかった．他所者には市町村名だけではなかなか位置がわからないのである．頒布希望者は著者（〒673　明石市[redacted]　電話[redacted]−[redacted]−[redacted]）に連絡されたい．　（金井弘夫）

□森江晃三：**都留自然散歩・植物**　51pp. 1991. 都留市教育委員会（事務局〒402　都留市上谷1−1−1）. ¥500（＋送料210, 切手可).

山梨県の東端，大月・富士吉田両市に挟まれた台地上に広がり，南西に富士山を望む都留市は，桂川とその支流の豊かな水と緑の自然に恵まれている．本書は永年この地の植物に親しんで来た著者（都留文科大学教授）が「都留自然シリーズ」の一巻として，同市の植物を紹介したものである．B6判でページ数も少ないが，140個の美しい原色写真と軽妙な説明によって誰でも「あっ，これか」とわかるに違いない．内容の幾つかを拾うと：